



NO.

# いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

## 三寒四温

住職 平田真純

この原稿を書き始めているのは春先であります。この時期を表す「三寒四温」という言葉があります。三日寒い日が続いたあと四日暖かい日が続き、これが繰り返され、やがて春を迎えるということですが、自然の摂理というものでしょう。

考えてみれば、神仏の思し召しというものも、自然の摂理といふことができます。いくら効験のある聖天様に祈願申し上げたからといって、翌日から嫌なことは何一つ起こらず、良いことばかりが続くということ。普通はありません。ご利益も、まさに「三寒四温」で、四日（四つ）良いことがあれば、三日（三つ）後退する、しかし一日分（一つ分）貯金ができています。その積み重ねは、後々とても大きなものになります。

もちろん、ただ漫然と日々を過ごしては、その限りではありません。「三寒四温」の裏には、とてつもなく大きな自然のエネルギーがあります。私たちも、聖天様への信心を含めた日常生活、日々のなすべきことにエネルギーを費やさなくてはけません。いつも聖天様を心に念じながら、そのお力を生かすことが肝

要と思われまます。

「念」ということばは、概して「常に思う」とか「常に心にかける」という意味で使われることが多いと思います。漢和辞典を引きますと、もうひとつ、仏教用語として「きわめて短い時間」という意味が記載されています。つまり「刹那」ということでありましよう。字のつくりを見ても、「今」に「心」ですから、「今まさにこの瞬間の心」ととらえることもできます。

時間というものは、常に流れていて止まることはありません。私たちはその流れる時間の中で、一瞬一瞬の思い、判断、行動などの積み重ねで生きています。それらが連続した時間の延長線上で、たとえば十年先二十年先にどのような影響があるか、つまり今作っている原因が、この先どのような結果に結びつくのか、これは神仏のみ知ることであって、私たちが正確に把握できることはありません。

私たちに将来を見渡せないという不安がある以上、一瞬一瞬を大事にして、よい原因を重ねていくしかありません。そして結果については、神様仏様の思し召しにお任せするよりほかありません。お任せするというのは運命論ではありません。努力の積み重ねが、三寒四温一歩ずつ確実に結果を出していくことになるのではないのでしょうか。

# 待乳山使り

お参り作法説明会 開催のお知らせ

日時 五月六日 午前九時～十時半

集合場所 額堂前 参加費 無料



当山のご本尊である聖天様に正しく気持ち伝えるためには、礼節を尽くした作法が重要です。

お参りを始めたばかりの方や、参拝作法を確認したい方を対象にお参り作法説明会を開催いたします。

朝まいり会終了後、境内及び本堂で実習を交えながら行います。山門をくぐるころから始まり、参拝の作法、本堂の中での勤めの仕方、お経の読み方などの説明を行う予定です。

参加費や事前のお申し込みは不要です。ぜひ気軽にご参加ください。



三月十七日、上嶋勇翔ちゃんのお宮参りを行い、行者様よりご加護を授かりました。尊天様のご加護で健やかに成長されることをお祈りしております。

## 五月御縁日大法要・行事紹介

### 香湯加持会

五月二十日(日) 午前十一時

講金 二、〇〇〇円

五月二十日、香湯加持会を執行いたします。

当山では香湯を作る際には丁子というお香を煎じます。丁子とはフトモモ科の木であるチョウジノキの開花前の蕾を乾燥させたもので、クローブとも呼ばれます。

仏教において丁子は他にも、勤行や灌頂を行う前に口に含んで嘔むことで口内を清める、含香としても使われています。これは丁子が邪気を払うと考えられていたためです。実用的にも、消毒・鎮静作用もあり、中国、インドでは紀元前の時代より薬としても重宝されてきました。そこから作られた香湯もまた清浄なものとされ、祈禱したお札を加持する際に用いられています。

香湯加持会では、住職が散杖によって皆様の頭上に香湯を降り注ぎお加持いたします。香湯によって心を清めれば、日々を健やかにすごせることでしょう。五月二十日はぜひ香湯加持会にお越しください。



## 御朱印について

御朱印とは神社やお寺において、参拝者に向けて押される印章です。特に昨今は御朱印ブームと呼ばれるほど、御朱印を受ける方が大変多くなっているようです。

御朱印の起源は六十六部廻国聖が寺社から受けた納経請取状にあると言われています。六十六部とは、日本全国六十六か所の霊場を廻り、一か所に一部書写した法華経を納める修行者です。この六十六部が寺社から納経の証に貰っていたのが納経請取状です。

江戸時代になると自ら持参した帳面に印をもらう形に変化し、納経帳を持って参拝する習慣が庶民にも広まりました。この頃には、写経ではなく納め札を寺社に納めることが主流となります。明治、大正と時代が下り、人々が自由に旅行を楽しめるようになった際、徐々に現在の御朱印へと変わったようです。それに伴い一般的に右の上に書かれる文言も「奉納」から「奉拝」に変化しました。

現代では参拝者を楽しませるために、様々な色を使った御朱印や特製のイラストを描く寺社も。コレクションとして集めるのも楽しい御朱印ですが、本来は参拝の証としてもらうものです。せっかく寺社を訪れるのでしたら、御朱印だけを目的にせず、神仏とご縁を深めることを楽しみたいものです。



# 大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズでご紹介いたします。

今月から本堂の畳替えを今でもされている佐々木畳店の先代のお話です。

## 私の信仰 ①

(歡喜十八号より)

佐々木秋雄

私は明治四十年生れ両親は本所厩橋に住んで袋物を営んでいました。大正十二年九月の関東大震災の時、私は十七才で他所へ畳職の修行に行っていた時でした。母親の話によると、丁度一日なのでお聖天様にお詣りして帰ったばかりで大地震に逢ったのです。下町一帯に広がった火に追われて両親は隅田川に飛び込んだところ、伝馬船に救われましてホッとしたのもつかの間で、余りに人が乗り過ぎて川の真ん中で転覆し、殆んどの人が溺死したそうですが、夢中で泳いでいる内、箆箆が流れて来てそれに捕まり芥船に助けられたんだそうです。母は「九死に一生を得られたのも聖天様のおかげだよ、だから、お前も信仰しなさいよ。」とよく言われたものです。私は全く聖天様は知らなかったし、信心なんて思ってもいなかったんですが、両親が救われたことは、私も救われたと同じだ。親も年をとったからこれからは私が代わっ

てお参りしようと思いました。

それから間もなく、区画整理にあい、現在の地に畳屋を開業し、一本立ちになって、本当に自分からお参り始めたのは昭和二年、私が二十二歳の時でした。以来今日迄毎朝仕事に出る前必ずお参りを続けています。まだ若いし父親の仕事と違っているので、早くお得意さんをふやしたい。又職人は健康第一です。だから決して大きな事を望まないが、健康で家内一同無事で過ごせるようお願いしているのです。とにかく身体が財産です。今日まで四十五年このこと一筋にお継りしています。

## 大空襲で救われた

ようやく商売も手広くなり、江戸川に工場も持った頃、大東亜戦争が激しくなり、徴用を受け厩橋の中島飛行機の下請協立製作所で部分品を作る仕事に通っていました。

あの昭和二十年三月十日の大空襲の時、私が疎開させていた家内と女の子二人が群馬から帰ってきたので、江戸川の工場内の家作に住まわせることにしました。家内の両親が浅草橋三丁目に居りましたので、又いつ会えるか解らないからと一家揃って訪れたのです。久しぶりに孫も来たというので大変歓待してくれて是非泊まっていけとすめられたのですが、明日又会社へ出なければならぬからと引き止めるのを振り切つて浅草橋の家を出た時は夕暮れでした。家内は次女を背負い亀戸で、私は自転車で長女を背負い大島辺まで来る

と空襲です。一生懸命懸けて江戸川の家に着くと同時に大空襲です。火災はみるみる内に広がって真昼のようになりました。

本当にちよつとの違いで生きるか死ぬかの瀬戸際でした。家内の家で泊まっていたらどうなっていたか、例え死なずとも苦労したでしょう。それに比べ江戸川は、周囲は蓮田ですぐ近くは広々とした荒川放水路があります。

火の海の東京を見て、一晩明かした時、「ああ、聖天様に助けていただいたな」と、感謝の気持ちで一ぱいでした。(次号に続く)

## 御奉納

前山由紀子様より打ち鳴らしのご奉納がありました。朝まいり会や日曜勤行の際、使わせていただきます。(上段)



井上穰・裕子様より伽羅と沈香のご奉納がありました。(下段)

## 信徒旅行のお知らせ

十月二十八日(日)から二十九日(月)にかけて、当山と同じく聖天様をお祀りしている奈良県生駒市の生駒聖天への信徒旅行を企画しております。また石切神社、四天王寺への参拝を行うほか、石切温泉への宿泊を予定しています。詳細は追ってお知らせいたします。

# 五月行事予定

## 御縁日大法要

### 香湯加持会

五月二十日(日) 午前十一時

講金 二、〇〇〇円也

ご参拝の皆様を浴油祈禱で使う香湯でお加持いたします。

### 朝まいり会

五月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には、読誦終了後に食事作法と大般若法要を行います。

### お参り作法説明会

五月六日(日) 午前九時から十時半

参加費 無料

当山の正式な参拝作法を住職が解説いたします。お参り初心の方はぜひご参加ください。

### 日曜勤行

五月十三日(日) 午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

### 写経の会

五月十三日(日) 午前十時/午後二時

会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましよう。

### 坐禅の会

五月二十六日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

### 合同大般若法要

五月二十五日(金) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に上げる御礼の法要です。

### 六月の行事 御縁日大法要

### 地藏供養会

六月二十四日(日)

午前十一時

講金一、五〇〇円也

## 祈禱のご案内

聖天様独特の供養法である

浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養

法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思

われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得

て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

## 祈禱料

別座祈禱 壹万円(一週間)

浴油祈禱 三千五百円(一週間)

華水供 五百円(一日)

## 法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壹万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。(ご意見やご質問は [iryoun@matsuchiyama.jp](mailto:iryoun@matsuchiyama.jp) までメールをお送りください。)